科目名	ソーシャルワーク総論Ａ	科目コード	W31005	単位数時　間	2単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	小川　幸裕		授業形態	講義		単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修							
授業の概要	１．社会福祉士の役割について学ぶ。 ２．相談援助の定義と構成要素について学ぶ。 ３．ソーシャルワークの形成過程について学ぶ。 ４．相談援助の理念について学ぶ。								
到達目標	１．ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 ２．社会福祉士の役割と意義を説明できる。 ３．相談援助の定義と構成要素について説明できる。 ４．ソーシャルワークの形成過程について説明できる。 ５．相談援助の理念について説明できる。								

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション	１）授業の概要および到達目標 ２）評価方法および評価基準 ３）留意点	講義
第2回	社会福祉士の役割と意義	１）社会福祉士および介護福祉士法における位置づけ ２）現代の社会福祉士に求められる専門性 ３）精神保健福祉士の役割と意義	講義
第3回	現代社会と地域生活	１）現代社会とは ２）地域での生活、地域や家庭内で起きていること ３）人々のせいかつとソーシャルワーカーとチームアプローチの必要性	講義 レポート課題
第4回	ソーシャルワークの概念	１）ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 ２）その他主だった定義	講義
第5回	ソーシャルワークの構成要素	１）クライエント ２）ニーズ ３）ソーシャルワーカー、社会資源	講義
第6回	ソーシャルワークの源流	１）ソーシャルワークの前史 ２）事前組織協会、セツルメント ３）YMCA、YWCAとボーイスカウト・ガールスカウト	講義 小テスト
第7回	ソーシャルワークの基礎確立期（～１９３０年	１）ケースワークの確立 ２）専門家するソーシャルワーク（１９２０年代） ３）世界恐慌・大不況とソーシャルワーク	講義
第8回	ソーシャルワークの発展期（１９４０年代～１９５０年代半ば）	１）診断主義派と機能主義派 ２）グループワークの形成、コミュニティ・オーガニゼーション ３）日本での発展	講義
第9回	ソーシャルワークの展開期（１９５０年代半ば～１９６０年代以降）	１）社会不安とソーシャルワーク ２）パールマンの問題解決アプローチと「ケースワークは死んだ」 ３）ソーシャルワークのモデルの乱立	講義
第10回	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	１）ソーシャルワークの統合化とジェネラリストアプローチの成立 ２）ジェネラリストアプローチからジェネラリスト・ソーシャルワークへ	講義 レポート課題
第11回	ソーシャルワーク実践と価値	１）専門職として共有する価値と個人の価値観 ２）ソーシャルワーク実践の判断と価値 ３）ソーシャルワーク専門職として身につける価値	講義
第12回	ソーシャルワーク実践と権利擁護	１）権利擁護が必要とされる背景と深刻な人権侵害の顕在化 ２）権利擁護の概念と態様 ３）ソーシャルワーク実践としての権利擁護	講義
第13回	クライエントの尊厳と自己決定	１）自己決定 ２）自立支援 ３）エンパワメントとストレングス視点	講義 小テスト
第14回	ノーマライゼーションと社会的包摂	１）地域生活支援という視座 ２）ノーマライゼーション ３）社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）	講義
第15回	まとめ	１）相談援助の定義と構成要素 ２）相談援助の形成過程 ３）相談援助の理念	講義

評価方法及び評価基準	１．定期試験50%、小テスト20%、レポート20%、リアクションペーパー10% ２．定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、社会福祉士の意義・役割、ソーシャルワークの形成過程、相談援助の構成要素および理念について択一式問題などで確認する。 ３．小テスト：２回程度予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。また、事例についての自分の意見を記載する論述式の設問も出す。 ４．レポート：ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ５．リアクションペーパー：講義の理解度および疑問点についての記載を課し、評価対象とする。配点は１回１点とし10回の記載を課す。各項目において半分以上記載されていない場合は評価対象としない。 ６．ノート：講義での板書やメモおよびリアクションペーパーで記載した疑問点について調べてきた内容の記載を課し、評価対象とする。 ※　リアクションペーパーやレポートなどにおいては、文字数不足、誤字脱字などについては減点の対象とする。
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』中央法規
留意点	１．教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 ２．社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。